

動物応用科学科3年 野呂ほづみ

小学生低学年の頃、テレビを通じてコアラが絶滅の危機に瀕していることを知り、地球上にそのような動物が存在していることを知りました。そして小学生高学年の頃、海外旅行へ行く際に空港で見かけたポスターや展示品で絶滅の危機に瀕している動物が密輸されている現状を知りました。

今まで単に動物が好きだった私が、絶滅危惧種・野生動物に興味を持ち始めたのは丁度この頃でした。

歳を重ね大学に入り、この大きな興味のあるくくりの中から何をもっと詳しく学びたいのか考え始めました。

これらの動物たちの、精子の凍結保存や人工授精などに関して学びたいなら繁殖学研究室、飼育下繁殖・飼育管理などに関して学びたいなら行動管理学研究室…どれもともと興味のある分野だったので迷いましたが、私が一番学びたいのは、絶滅の可能性のある動物、希少な動物や野生動物が野生下でどのような役割を担っているのか、また、その動物の保全に関する事でした。私は、野生動物学研究室への入室を希望しました。

入室する際に高槻先生から「最も興味のある動物を1種類挙げよ」と言われました。何か特定の動物が好きでその動物について調べたかったから野生動物学研究室に入室を希望したというよりかは、絶滅の可能性のある動物、希少な動物や野生動物に興味があり、そういう視点で話を聞き、見たりしていた私は「これ！」といえる1種類が思い当たりませ

んでした。

高槻先生にそのことを言うと、上のような条件にあたり研究する価値のありそうなものをいくつか挙げて頂きました。

その中から私は迷わずオカピを選びました。大学に入る前からズーラシアに行った事があり、入学してからは大学から近い事もあり何回か行っていて、園内を歩き最後に見ることが出来るオカピの、その不思議な模様と見た目によらずしっかりした顔つき、発見された経緯など、どれも興味があったからです。

卒業研究の話を高槻先生と詰めていき、結果的に私は、「オカピとキリンの体重と通過速度の比較」と「個体識別された鹿の角の成長などに関して(金華山)」という2つを研究することになりました。

卒業研究の話をすればするほど取り組むのが楽しみになります。早く動き出したいくなります。

これから先、いざ取り組むと英文に溺れたりうまく研究が進まなかったり色々問題は生じるのかと思いますが、どんな時も、この研究を与えてくださった高槻先生や南先生を始め、これから支えてもらうことになるだろう室生に感謝し、今の「知りたい!」という高まる気持ちを忘れずにやっつけていこうと思います。また、私が誰かの研究のお手伝いや支えとなれるよう努力をしていきたいと思いません。

残りの大学生生活2年間、時間を大切に使い有意義なものとなるよう励んでいきます。